

勉強会は会員や地域の方の参加をお待ちしています

SNKからのお誘いです

シニアの勉強会・・・2015年度シリーズ

超高齢者社会を迎え、4人に1人は高齢者（65歳以上）となりました。高齢化社会は、助け合いを基にした社会でもありますが、そのことについて自主的な準備も知識も欠かせません。

認知症の人は462万人及び予備群400万人と発表があり、2025年には団塊の世代が75歳となり700万人認知症と推定される。

高齢化社会としての情報は増えたとはいえ、役に立つ情報となりえていない場合が多いようです。

そこで、シニアネット久留米では専任講師を招聘して《シニアのための勉強会》と銘打った講座・勉強会を開くものです。

高齢化社会となりどんな問題点が身の回りに起きるか？この勉強会は、4月よりテーマを替えて5回ほど開催する予定です。

“貴方は、何か認知症予防を行っていますか？”

第1回勉強会
2015年度

日時：4月11日（土）13:00-15:00
テーマ：認知症予防を行っていますか？
会場：御井町府中公民館（NPO SNK）
会費：500円（資料代込み）
講師：江上憲一（NPO 法人SNK 理事）

シリーズシニアの勉強会、予定

- 1・江上憲一さん
（理事・認知症キャラバン・メイト）：幅広く日本の社会を見ていると言えること
- 2・日野真郷さん（会員）：「遺言の話」
- 3・保坂恵美子さん（久留米大学名誉教授）：大学で教える社会福祉（老人対策としての福祉、いまどきの若者論）
- 4・社外の講師として
：時事問題で話ができる福祉施設の人、福祉を学ぶ大学生が見る社会（留学生）
2015年度の計画です、ご期待ください。
世話人 ノ瀬尚文



プロジェクターを使いシニアの勉強会・2014年度

「認知症予防の5年間の10大実践報告」講座

講師：江上 憲一氏（認知症キャラバン・メイト）からのコメント

早期発見・早期対策が求められるなか、結局は、自分ことは自分で護るしかありません。それが、結論です。私は、5年前から、「認知所予防」に関心を持ち、自分の10大実践項目を実行中です。皆さんの御参考になればと思って、報告する次第です。

お知らせ

1・第13回久留米町探検隊募集：

- ・実施日 4月12日（日）・集合場所 甘木鉄道松崎駅 9時20分集合
 - ・コース 松崎駅～霊鷲寺～北構口～松崎宿資料館～南構口～松崎城跡～桜馬場を通り～お茶屋跡～旅籠油屋（昼食）解散
 - ・会費 1,000円（弁当・お茶・保険付）
- 「わがふるさと 筑後松崎 稲妻形にうらぶれたとほい昔の宿場町」と稲妻の詩を残しています。
隊長：会員 高木保幸(SNK会員)

2・「ヒポクラテスの木保全事業・後日談」

広報SNK第53号特集として掲載された本件は、日本医師会創立100周年記念事業として採用されましたが、日本医師会では本件を今年10月14日モスクワで開催される世界医師会総会に日本提案として付議したいとのことです。近く募金要綱を和英両文で起草し、医師会の承認あり次第、専門業者にHPの制作を依頼します。いずれお知らせしますので、どうぞご覧下さい。

(SNK理事 岡田哲也)

(あとがき)公園も路地も路地の先にある広場も、どこもかしこも椿や桜や桃が咲き菜の花が咲く。4月は新年度を迎え学校も会社も幼稚園も、人が集まり花が咲いたようだ。春は華やかに、シニアの集まりも春を迎え花ざかりの森となる。(式)

SNK

SENIOR NET KURUME

編集・発行
NPO シニアネット久留米
理事長 小島紀夫
久留米市御井町 387
TEL 0942-65-4545

私とオペラ

昭和40年ころ、NHKが毎年のように「イタリア歌劇団」というものを招聘して上野の文化会館でオペラの公演をしていました。NHKとしてはいわば「オペラの“啓蒙”」という意味合いがあったのだと思います。イタリアから呼ぶのは主役級の歌手と指揮者でオーケストラと合唱団は日本人でした。その時に見たオペラはロッシーニの「セビリアの理髪師」でした。これがファンになるきっかけになったのですが、まずびっくりしたのは、今まで不愉快極まりないと思っていた女性歌手の声が、逆に人間の声とは思えないくらい、きれいに美しく響いてきたのです。この時、ロジーナを歌ったのは、ジュリエッタ・シミオナートという当時の一流のメゾソプラノでした。男声では、主役フィガロ（バリトン）のアルド・プロッティが素晴らしくて感激しました。雷のような大きな声に最初は驚きましたが、それはやはり男性的な迫りに満ちたきれいな声で心を揺さぶられました。これが、私がミーハー的オペラファンになったきっかけです。

オペラが素晴らしい芸術だと思うのは、個々の場面で歌われる歌や演奏される音楽が人生の奥深い真実を歌いあげてくれるからです。モーツァルトの「魔笛」はストーリーこそ荒唐無稽で、ツジツマがあわないことばかりですが、一つ一つの歌に人生の哀歓が歌い込まれていて、聴いている方は、そうなんだよな、おれもそう思うよ、という感慨が胸に迫ってくるのです。オペラを楽しむに当たって最大の障害は、言葉の問題です。対策としては、オペラを見る前に筋書きだけは本で調べて憶えておくか、ベストはDVDで同じオペラを予め見ておくことです。

オペラを見に行っても残念なのは、有名歌手が出るというのでそれを楽しみに行くのに、主役級が体調不良とかで急遽降板してしまうことです。これは結構たくさんありました。スカラ座でのナタリー・デッセイ、東京のトリノオペラでのバルバラ・フリトリ、などなど。ヨーロッパでは歌手の交代は頻繁にあるのでお客さんの方も慣れてしまっていて、怒る人はあまりいないようでした。

SNKにも何人かオペラの好きな方がいますが、全体的にみればかなりの少数派で、私は、オペラとオペラファンというのは“絶滅危惧種”ではないかと思っています。すぐに絶滅する危険は少ないが、長期的には危ないと思います。問題の根源はオペラを公演するには大変なカネがかかることです。

カーテンコールでの出演者たち
中央赤いコスチュームが主役アンナポレーナ、その右ジョヴァンナ役の Sonia Ganassi

本場のヨーロッパではチケット代は1万から2万でリーズナブルですが、それでも政府の大きな援助に支えられているようです。アメリカはお金持ちが大金を寄付してくれるので、政府や自治体の援助なしにオペラをやっていけると聞いたことがあります。日本のお金持ちもそうしてくれると、絶滅しないですむと思うのですが。私個人としてはこれからの余生もオペラとお酒がある限り退屈することなく過ごせそうです。

(副理事長 金子忠次)



休憩時間ロビーの様子、殆どの観客が幕間の休憩時間にはロビーに出てきてお酒を飲んだり軽食を食べたりしては談笑している。オペラは大事な社交の場だった。

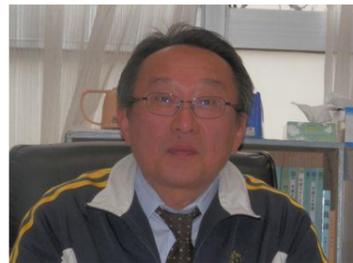
特集 ともだちの輪 道徳を学ぶ

未来のおとなたち、算数も道徳も大事だよ。

子どもたちへ

☆シニアネット久留米では、有志たちが小学校2・3年生の算数の勉強を手伝っている。子どもが勉強につまずかないよう先生の補助要員として助ける。たくさんのおとなが一緒に分らないと手を挙げて、子どもが困らないよう助言する、という仕組みである。子どもたちは何れ大人になる、そして社会に出てから困らないよう「算数の基本は大事」算数の苦手な子どもを失くす作戦である。☆小学校では新年度から道徳教育が新教科として採り入れられるようである。人の道を指導する先生には facilitator としての熟練した指導が求められる。

これからの道徳教育



SNKの皆様には平成19年度から本校算数のチャレンジ学習にご支援を賜り感謝申し上げます。お陰様で年々学力の高まりを実感しています。さて、今回は「道徳教育」について原稿の依頼を受けましたので、最近の動向や私なりの考えをお伝えできればと思います。

昨年、中央教育審議会（文部科学大臣の諮問機関。文部科学省に置かれている多数の審議会のうち最高の位置を占め、最も基本的な重要事項を取り扱う。）が道徳教育の充実のための答申をまとめました。そのポイントは

- ① 徳を特別の教科に位置づける。
- ② 値による評価ではなく、子どもの道徳性を総合的に把握して文章で評価をする。
- ③ 国の検定を受けた教科書を使用する。の3点です。



算数の授業風景（京町小学校2年1組）

学習指導要領の改訂が順調に進めば、道徳は、4年後には「特別な教科」になります。いじめ対策としての意図は理解できますが、どれだけいじめ対策に有効かという検証はされていませんし、評価のあり方や教科書の問題などの課題をどう克服していくかが今後の課題です。子どもだけでなく、私たち大人の道徳性向上も喫緊の課題だと感じています。（京町小学校校長 鶴田亨 60才）



写真は教室に掲示された友達情報

「道徳教育に思うこと」

中学生の時、同じ学年にテッチャンと呼ばれている人がいました。彼は少し特別支援が必要な子で、動作は鈍くいつもにこにこしていました。もう五十年以上も前のことです。ある日、全員朝礼で校長先生が、そのテッチャンのことを話しました。彼が塵を拾って運動場を回っていたそうです。そこには他に誰もいなくてたまたま通りかかった校長先生が気づいたのだそうです。校長先生は、彼の行為を大変素晴らしい、とみんなの前で褒めました。なぜかそのことが今も記憶に残っています。その時、その校長先生がすごいなと思いました。校長先生は、よく学校内を隅々まで歩いていました。皆に話しかけ、塵が落ちていたら自分で拾っていました。今思えばそれが私の考える道徳教育です。最近、気持ちがささくれ立ってきたような気がしています。あまりにも世の中の出来事が凄惨でむごいことが立て続けに起こります。なぜ、こんなことになるのでしょうか。心の平安、安らぎ、ゆとりがなさすぎます。他人を思いやることも、周りをじっと見つめることもなくなってしまっています。

あなたは、自然に触れたなと感じたことがありますか。森や川や野原に出て思いっきり新鮮な空気を吸ったことがありますか。ましてや、子や孫と林の中をゆっくり散策したことがありますか。今、日本国中に六十か所あまりの森林セラピー基地というものができています。約二キロの林の中を、ゆっくり二時間かけて歩きます。眺めのいいところに立ち止り、大きな木の下に寝転がって梢を眺めて、時には瞑想し、鳥の声を聞き、風の音を感じます。このことが、道徳教育とどう関係するのか、と不審に思われていることでしょうか。理由は簡単です。林に出かけて心が安らぎ、副交感神経が活発になりイライラしなくなり、周りに気を使えるようになり、穏やかな生活が送れるようになる。人の道、徳を学ぶほどの効果があります。（SNK 会員 吉永邦夫 70才）

「私の受けた道徳教育」

「国民」学校の1年生として入学した私は「修身」という学科で「道徳」を教わった。それは敗戦時の5年生まで続いたものです。国語・算数・などより一段上の学科だったようで通信簿では最上段にその評価は載っていた。「修身」とは文字通り人間として守るべき規範を…たとえば約束を守るとか責任を果たすなど等を1年生の時から厳しく教え諭されたものである。いくら勉強が出来ても人間としての品行が正しくなければ人間としての価値は無いという考えを植えつけられたものだ。今考えるとその品行方正に強く金縛りにあったような人生を送ってきたような気がする私です。（SNK 会員 徳永和弘 80才）

「道徳教育の実施について考える」

「道徳教育の実施について考える」文科省のHPに次のように書かれている。「児童生徒が生命を大切にする心や他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識などの道徳性を身につけることは、とても重要です。」「冊子“私たちの道徳”は児童生徒が道徳価値について自ら考え、実際に行動出来るようになることを、ねらいとして作成した教材です。家庭・地域での活用を期待されます。いじめ問題への対応や我が国の、伝統と文化、情報モラルに関する内容も充実を図っています。」と書かれているまことにもって良いことであり異存はない。しかし、いじめの問題など、道徳教育に取り組む上で少なからず問題があると思う。
1・家庭において、核家族で育ち、道徳教育受けていない両親が子に学校と協調して道徳を浸透させる必要があるがこれは容易でなかろう。
2・問題を起こす人、軌道から外れる問題児はいつもいる。学校、家庭、地域などで道徳的環境に馴染めない児童生徒が出ることを想定して教育的精力を傾注していくことが求められる。特に学校と家庭がどうしたらもっと協力して教育にあたる事ができるか？抜本的仕組み作りが必要。PTAを抜本的に改編して正面から問題解決に取り組むことを提言する。（SNK 会員 今津一躬 77才）



あなたのまちの 筑邦銀行

この指とまれ、あなたと話そう、あなたと遊ぼう、みんなが集まる世界をつくろう